

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (教育学)	氏名 Author	加藤 智威
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 Title of Dissertation ガーナと日本の理科授業分析比較研究 －教室談話構造と問いかけに着目して－			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	広島大学大学院国際協力研究科 教授	清水 欽也	印 Seal
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科 教授	馬場 卓也	
審査委員 Committee	広島大学大学院国際協力研究科 准教授	牧 貴愛	
審査委員 Committee	国立教育政策研究所 総括研究官	松原 憲治	
審査委員 Committee	広島大学 名誉教授	池田 秀雄	
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本論文は、ガーナと日本の授業比較を教室内での談話構造の同一文化内及び異文化間で比較することにより、開発途上国における授業改善の示唆を得ることを目的とする研究である。</p> <p>これまで理科教育の国際比較において、我が国と他国との比較は数多く存在してきた。特に我が国の教育協力対象国との比較においては、対象国との差異を見出しそこを埋めるという手法がとられてきた。しかしながら、互いに文化が異なっており、それに伴い授業観も異なるはずであろう対象国との比較可能性については、これまで数多くの疑義が唱えられてきた。そこで本研究はこの問題を解消するため、まずガーナ国内での優秀と評価される教員と一般教員を比較することで、ガーナ国内に潜在的に存在してきた授業観を顕在化させたいと、両国の授業の比較可能性を検討し、そのうえでガーナにおける問題点を指摘するという手法をとっている点で独自性がある。</p> <p>1章では背景と目的について、授業分析の重要性が指摘され、比較する視点として、理科授業における談話構造と発問の質について同一文化内および異文化間で比較することの意義が述べられた。2章ではガーナ共和国における Best Teacher Award の受賞教師と一般教師の比較が行われ、受賞教師のほうがより生徒の回答に対して、Evaluation より Feedback を多用しており、質問の質もより高次の質問を行っていることを明らかにした。3章では、日本の理科教師の談話構造について分析し、その特徴としてやはり Evaluation より Feedback が多いこと、高次の質問も少なからず行われていることが明らかにされた。4章においては、前章の結果を元に日本とガーナの授業比較の可能性について検討し、ガーナにおいて評価される教員の授業は我が国の教員の授業の特徴を兼ね備えているという点から、両国の比較からガーナの授業改善の示唆を得ることは可能と判断した。この結果を受けて、5章においては、ガーナの教員においては、たとえ受賞教師であっても、我が国の教員より feedback、高次の質問が少なく、談話構造や質問の質において改善の余地が見られることが明らかとなった。</p> <p>以上のような内容を持つ本論文は、教育協力における理科授業分析の手法に対する新たな知見を提供する有意義な研究と評価され、本論文の著者は博士(教育学)の学位を授与される十分な資格があると認められた。</p>			